【ごあいさつ】

本学は私立薬系大学として 100 余年の歴史を有する我が国有数の伝統校であり、これまでに韓国、中国、エジプト、トルコ、台湾などの国々や地域から多くの学生や教員を引き受け、また、海外約 10 の大学と学術交流協定を締結するなど国際的な貢献を目指した活動を活発に展開してまいりました。さらに、海外研究者の積極的な受け入れ体制の充実を目指して平成 14 年 1 月から「恩田スカラーシップ」よる資金援助制度をスタートしました。

ところで、日本学術振興会（JSPS）は国際的な学術交流の推進を目指して数多くの事業を企画・展開しております。このような潮流のなか、本学では久保陽徳教授が平成 16 年 4 月より第 6 代学長に就任し、本学の新規運営大綱にアジア・アフリカ諸国との研究教育交流の推進を提案し、平成 17 年 4 月に明治薬科大学アジア・アフリカ創薬研究センターを設立しました。幸いにも、JSPS から新規事業としてアジア・アフリカ学術基盤形成事業を立案・公募されましたので、センターに所属するメンバーが中心となり、タイ、インドネシア、インドの 3 国とシンガポール及びフィリピンの協力機関とともに同事業に応募しましたところ、平成 18 年度の拠点機関のひとつに本学が選定され、その研究課題「亜熱帯生物由来天然物を創薬シードとする医薬品開発」のもとに国際的な学術研究を開始することができました。なお、本事業の相手国側拠点機関はチュラロンコーン大学薬学部（タイ）、バンドン工科大学理学部（インドネシア）、マイソール大学理学部（インド）であります。さらに、JSPS 事業資金のもと、平成 18 年 12 月14日から 2 日間チュラロンコーン大学薬学部におきまして「日本学術振興会第 1 回アジア・アフリカ創薬基盤形成セミナー」を主催し、本事業メンバー及び本学大学院生を含め 150 余名の参加者による口頭及びポスター発表が行われました。

以上のように、本学の明治薬科大学アジア・アフリカ創薬研究センターが本格的に活動を開始することができましたのは、国内外の諸先生方から賜りました絶大な御支援とご協力の賜物であると感謝しております。

本日、御出席いただきました皆様には、今後とも本学アジア・アフリカ創薬研究センターの活動を御理解いただき、今後とも、ご指導ご鞭撻賜りたく心よりお願い申し上げます。

2007 年 3 月 9 日

明治薬科大学　アジア・アフリカ創薬研究センター
センター長　　森田隆司